

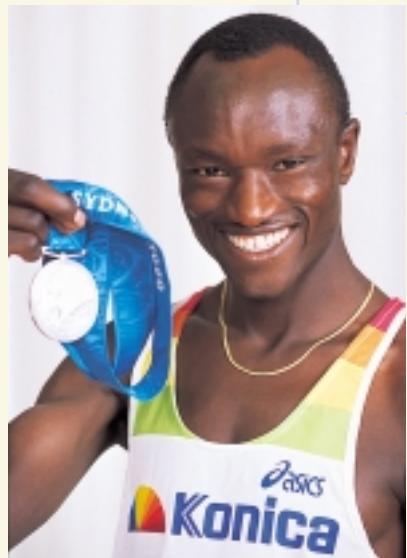
# Konica Topics

シドニーオリンピック

男子マラソン

銀メダル受賞!!

コニカ陸上競技部所属のエリック・  
ワイナイナ選手が第 27 回オリンピック  
ケシドニー大会男子マラソンでケニア  
代表として出場し、2 時間 10 分 31  
秒の記録で銀メダルを受賞いたしま  
した。



エリック・ワイナイナ選手

ケニア共和国出身のワイナイナ選手は 1993 年にコニカ入社後、給与厚生センターに所属し、当社陸上競技部において日本流に地道に努力を重ね、前回のアトランタオリンピック大会での銅メダル受賞に続く快挙を成し遂げました。ケニア代表ではありますが、どんぶりものをはじめ和食が大好きなワイナイナ選手は“第四の日本代表”とも言われています。

## ワイナイナ選手のよろこびのコメント

「オリンピックで金メダルの受賞は私の小さい頃からの夢でした。もう一歩及びませんでしたが、銀メダルの受賞が全てとてもうれしいです。レースは風が強く、アップダウンが激しいコースでしたが、『ネバーギブアップ、ライバルには負けられない、ゴールドメダルが欲しい』と自分に言い聞かせながら走り続けました。メダルを確信



したのは 35 Km 付近でしたが、最後まで金メダルを目指してがんばりました。母国ケニアの代表として期待に応えるレースができたことは誇りに思っています。また、この栄誉は、私一人の力ではなく、私を 7 年間見守り、世界のマラソンランナーに育ってくれたコニカの皆さんのお陰でもあり、心より感謝しています。次の目標は、ズバリアテネ大会です。精一杯がんばりますので、更なるご支援をお願いいたします」

コニカ陸上競技部監督の酒井勝充は、ワイナイナ選手の誰よりも強い「メダルへの執念」と大舞台での「ここ一番の勝負強さ」から、「ひょっとしたら何か大きなことをやってくれるのでは、という期待感もありました。」そして「ワイナイナとともに歩んだ道のりは、私の陸上人生でもまさしく大記録です。彼は最高のプレゼントをくれました」と述べています。

ワイナイナ選手の今回の成果は、トレーニングを積み重ねた彼自身の努力、オリンピックに懸けた精神力の強さとともにワイナイナ選手を支えたスタッフ全員による奮闘の賜物です。



コニカの経営ビジョンは、「感動創造」であります。ワイナイナ選手が世界中に興奮を呼び起こしたこの記録の感動は、当社の貴重な財産として永く未来に引き継いでまいりたいと存じます。



## ワイナイナ選手のプロフィールと主な実績

生年月日: 1973年12月19日生まれ

出 身: ケニア共和国ニヤンダルワ市  
ニヤフルル町

身長体重: 身長 175cm、体重 59Kg

経歴:

1992年9月ウェル・セガンダリ高校卒業

1993年7月コニカ株式会社入社

現在給与厚生センター所属

実績:

1994年8月北海道マラソン大会優勝

1995年2月東京国際マラソン大会優勝

1996年3月琵琶湖毎日マラソン大会 2位

1996年8月アトランタオリンピック 3位  
(銅メダル)

1997年8月北海道マラソン大会優勝

1998年6月札幌国際ハーフマラソン大会優勝

2000年4月長野マラソン大会優勝

2000年10月シドニーオリンピック 2位  
(銀メダル)

自己最高記録:

2時間10分17秒

(2000年4月9日長野マラソン)

## NHK「プロジェクトX」

### 「ジャスピンの開発物語」が 全国に感動を伝える

8月29日のNHK総合テレビ「プロジェクトX 挑戦者たち」にて「誕生！人の目を持つ夢のカメラ～オートフォーカス14年目の逆転」と題して、世界初の自動焦点カメラ「コニカC35AF(ジャスピンコニカ)」の開発物語が紹介されました。1963年、コニカ入社6年目の電機技術者、百瀬治彦はシャッターを押すだけで自動的にピントを合わせてくれる自動焦点カメラの開発にたった一人で着手しました。内蔵したセンサーが被写体との距離を割り出し、レンズをピントの合う位置に動かすまで僅か0.1秒で行



わなければ実用化はできない。全てが手探りのなか、決して諦めようとしない百瀬を支え続けたのが、当時のカメラ開発部リーダーの内田康男でした。この「ジャスピンの開発物語」は完成まで14年という長い年月にわたる開発者たちの熱い情熱と執念が感動的に描かれ、国内のみならず海外在住の方からも「感動しました」との感激の声が数多く寄せられました。

「アリさんがアリ地獄と知りながら、入らなければよいのに入っていく。その美しい砂が見えて足を滑らせたのかもしれないが。私も研究テーマを美しく感じていたので、やり遂げようと思い、地獄と知りつつ入っていった」と当時を振り返りつつスタジオで百瀬が語った言葉に、一途に研究を続けるチャレンジ精神が凝縮されていました。

## 2000年日本女子プロゴルフ選手権大会コニカ杯に特別協賛

コニカは3年前に、CI導入10周年記念イベントとしてスタートした「2000年日本女子プロゴルフ選手権大会コニカ杯」(主催:社団法人日本女子プロゴルフ協会)に今年も特別協賛しました。9月7日から10日まで福島県リベラルヒルズゴルフクラブで開催された当大会では、2日目から首位にたった高村亜紀プロが通算1アンダーで大会史上最多の5人によるプレーオフの結果、同大会5年ぶり2度目の優勝を手中に收めました。



## 「コニカ HEXAR RF」

### 欧州でも大賞受賞

昨年12月の発売以来「レンズ交換できるヘキサー」として高い評価をいただいている35mmレンジファインダーカメラ「コニカ HEXAR」が日本の「カメラグランプリ」に続いて「EISA-ヨーロピアン・カメラ・オブ・ザ・イヤー 2000-2001」とヨーロッパのカメラ賞「TIPA AWARDS」を受賞しました。これらはともに欧州の写真専門誌で構成される二大映像賞です。特筆すべきは、EISAが当社にとって初めて栄えある大賞の受賞となったことです。



## 背景も人物もきれい!

### 「撮りっきりコニカ MiNi Goody SUPER」



コニカはレンズ付フィルムで世界初のフラッシュ光量を自動調節するオート光センサー\*を搭載した「撮りっきりコニカ MiNi Goody SUPER フラッシュ付」(27枚撮り/40枚撮り)を9月1日に発売しました。

今までのレンズ付フィルムでは、約3m以内の人物撮影において顔が露出オーバーになり、いわゆる“白とび”になりやすいという傾向がありました。「Goody SUPER」では、新開発のオート光センサーにより、フラッシュ撮影時に人物に当たるフラッシュ光量

を調整することができ、背景を美しくとらえながら、人物の肌色も自然に再現することができます。

また、昨年発売した「撮りっきりコニカ MiNi Goody」で採用した世界初のフラッシュスイッチ連動オート絞りチェンジ機能\*\*を踏襲しており、写りにくい夕景や鮮やかなイルミネーションなどの背景まできれいに撮ることができます。

コニカは、コンパクトカメラに迫る高画質を開発コンセプトに、簡便性、操作性、高品質を追求したレンズ付フィルムをこれからもご提供してまいります。

\* フラッシュシーンで受光素子が被写体に反射した光を検知し、適正露光になった時点でフラッシュの発光を停止させることによりフラッシュ光量を調整する仕組み。

\*\* レンズ付フィルムで初めて実現したフラッシュスイッチ連動絞り変換機能。



普通のレンズ付フィルム



Goody SUPER

